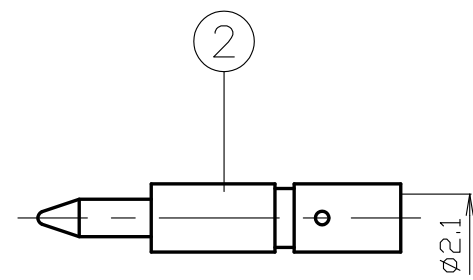
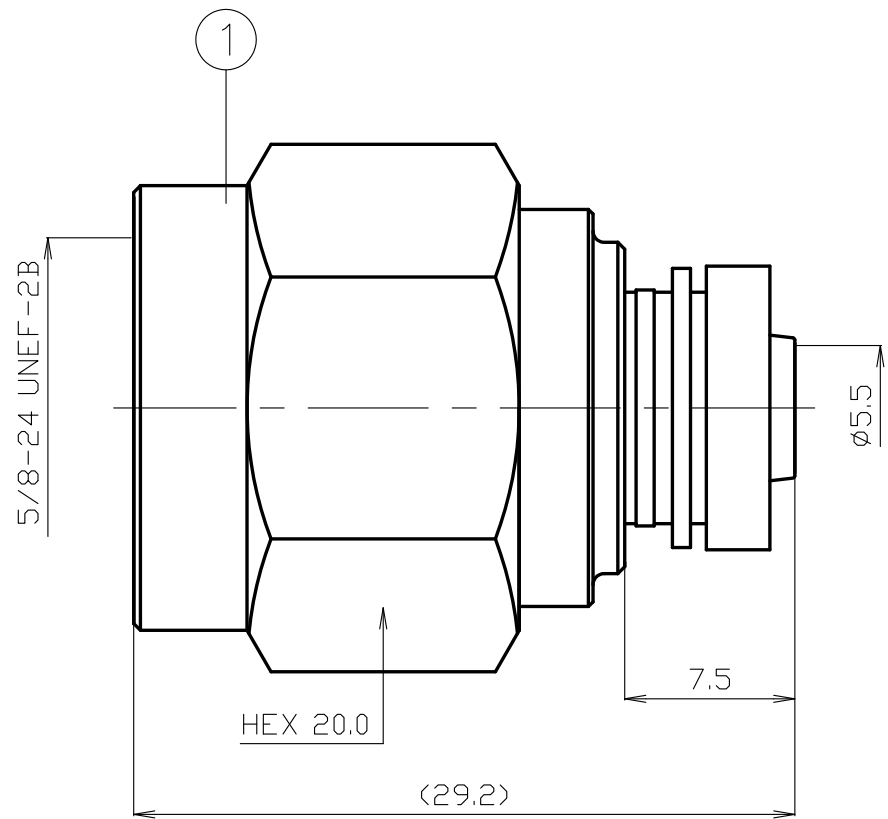


番号	変更・記事	日付	確認
△1	社名変更	2012.01.05	済
△2	RoHS表記 追記	2017.01.26	(山本)
△3			
△4			
△5			



RoHS Compliant [Cd ≤75ppm]	
REMARKS	BRASS: Cd ≤75ppm PHOSPHOR BRONZE: Pb <4wt%

7						尺度	3/1	製図	検図	承認	確認	品名	
6								渡邊	檜	山	三		NP-5FSW
5								'17.01.26	'17.01.26	'17.01.26	'17.01.26		
4								直弘	澤	本	村		
3						単位	mm						
2	中心コンタクト	黄銅	1	Au		日付	2002.07.31	投影法					
1	本体	黄銅	1	Ni									
番号	部品名	材質	数量	処理	備考							図番	S-0511765

仕 様 書

品名 NP-5FSW
 図番 S-0511765
 規格 JIS C 5411に準拠
 1 定格電圧 AC 500V(実効値)
 2 公称インピーダンス 50Ω
 3 周波数範囲 6,000MHz
 4 使用温度範囲 -20℃から+80℃
 5 使用相対湿度 85%以下

No. 0510583

株式会社トーコネ

確認	検印	作成
山 12.8.29 本	山 12.8.29 本	檜 12.8.29 澤

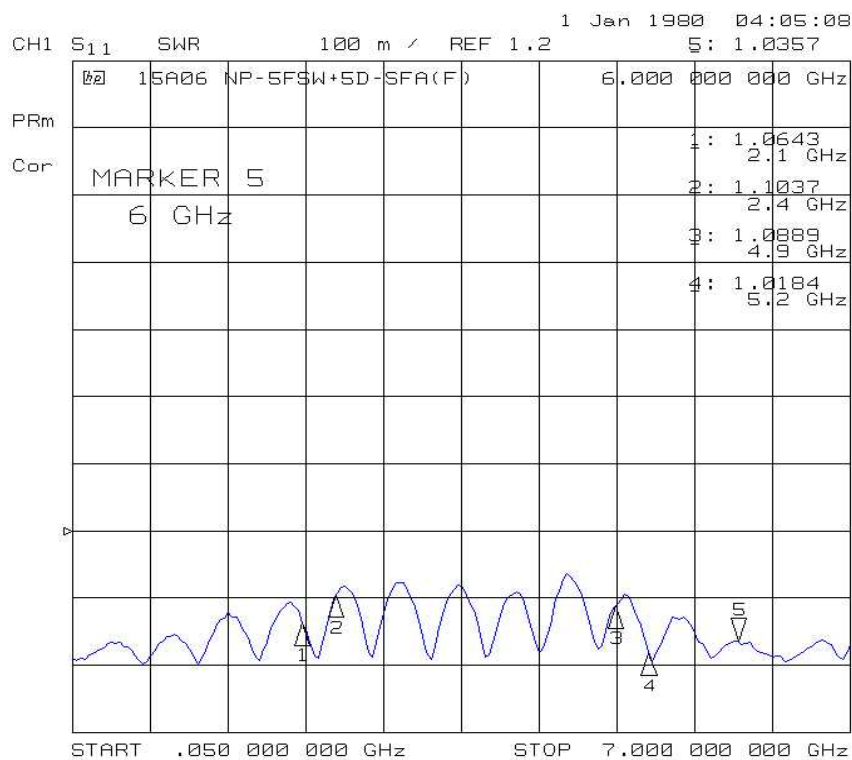
項目	性能	試験方法(JIS C 5410)	
1	外観及び構造	図番 S-0511765 添付図に示す。	
2 3 4	構造形状	形状及び寸法	図番 S-0511765 による。
		材 料	図番 S-0511765 による。
		仕上げ	図番 S-0511765 による。
		絶縁抵抗	1,000MΩ以上
5 6 7 8	電 気 的 特 性	耐電圧	せん絡及び絶縁破壊がないこと 7.2.2による。 a) 試験電圧 1,000V a.c. (実効値) b) 電圧印加箇所は結合しないコネクタの中心コンタクトと外部導体間とする。
		接触抵抗	3mΩ以下 7.2.3による。 ケーブルを付けない中心コンタクトと外部コンタクト間とする、
		電圧定在波比 (V.S.W.R.)	1.2以下 7.2.4による。周波数範囲 0.3MHzから6,000MHz 下図参照 2/2 (5D-SFA使用時) 周波数範囲 0.3MHzから4,000MHz (5D-SFA-LITE使用時)
		互換性	異常なく結合すること オス結合部とメス結合部を結合させたとき。
9 10 11	機 械 的 特 性	結合部接続強度	接続ナットが外れたり、緩まないこと 7.3.8を満足すること。 引張力:300N
		ケーブルクランプ部の引張強度	軸方向 ケーブルの移動及びケーブルクランプ部に異常がないこと 7.3.7を満足すること。 コネクタにケーブルを通常使用する方法で取り付け後軸方向に引張力を加える。 引張力:196N以上
		繰り返し動作	接触抵抗 10mΩ以下 7.3.10によって抜き差しをした後、測定を行う。 a) 動作回数 5000回 b) 試験速度 毎分10回以下
12 13	耐 候 性	防水性	漏れによる気泡がないこと ケーブルに取り付けたコネクタを水に浸し空気圧(19.6kPa)を20秒間加える。 絶縁抵抗 番号5の性能を満足すること。
		温度サイクル	絶縁抵抗 1,000MΩ以下 耐電圧 せん絡及び絶縁破壊がないこと 外観構造 ひび、割れ、変形などの異常がないこと JIS C 5402 7.2.1による。 コネクタは非結合の状態を試験する。 a) 低温側の温度 -20℃±2℃ b) 高温側の温度 +80℃±2℃ c) 移し換え時間 2分から5分間 d) サイクル数 5サイクル e) 放置時間 30分間
14 15	耐 食 性	耐電圧 1,000V(実効値)を加えた時異常がないこと 7.4.5に基づき試験を行った後、測定する。	

仕 様 書

品 名 NP-5FSW

No. 0510583

	項 目	性 能	試験方法(JIS C 5410)
15	耐食性	接触抵抗 50mΩ以下	7.4.5に基づき試験を行った後、測定する。
	適合ケーブル		
16			5D-SFA、5D-SFA-LITE



VSWRデータ

	変 更 履 歴	日 付
1	社名変更	2012.01.05
2	適合ケーブル 追記	2012.08.29
3		
4		
5		

NP-5FSW 取付仕様書 (TA-24R)

適合ケーブル 5D-SFA-LITE

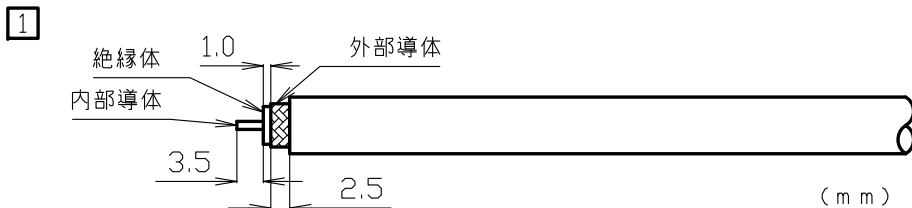
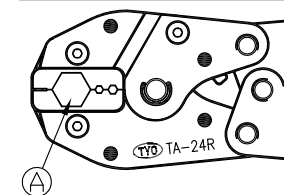
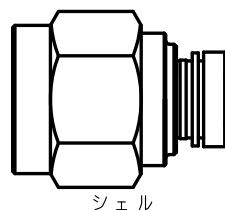
専用圧着工具
TA-24R

図番 S-0511765

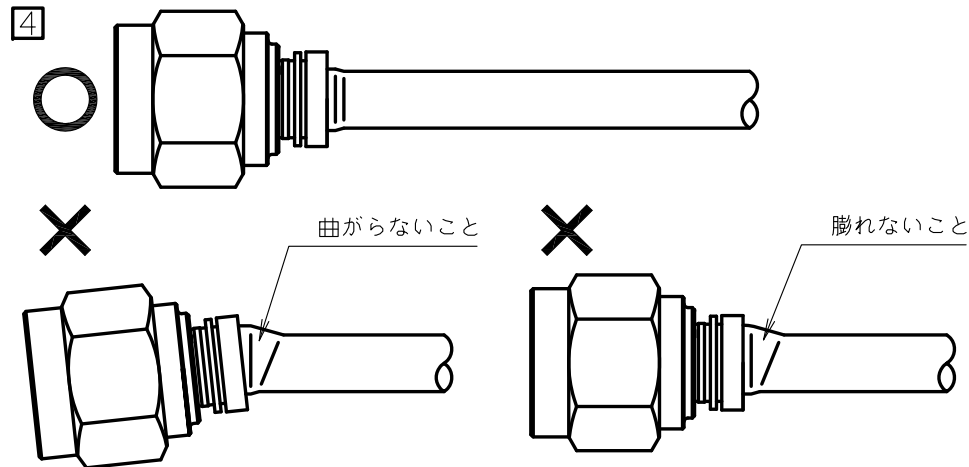


作成	確認
栗 '15.12.16 原	山 '15.12.16 本

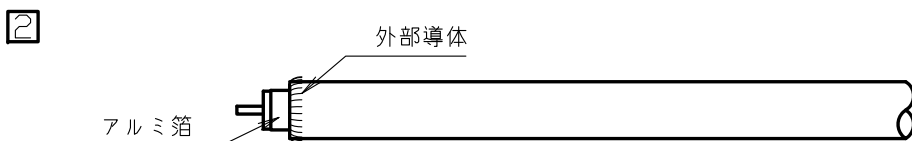
部品構成



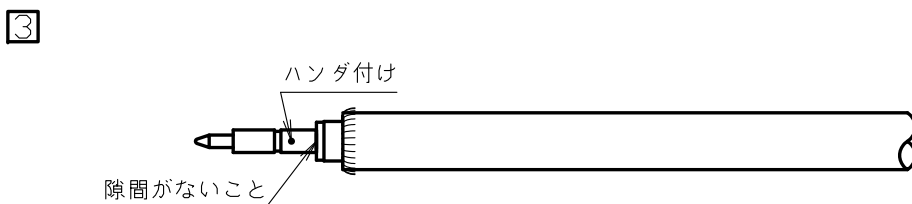
同軸ケーブルを図中の寸法で切り取る。



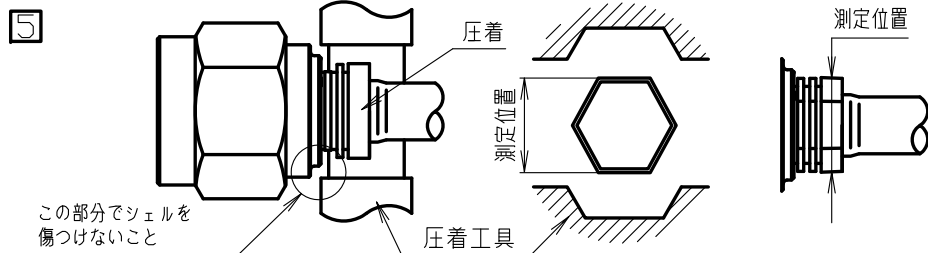
シェルを同軸ケーブルの外部導体とアルミ箔の間に真っ直ぐ入るように装着し
中心コンタクトが定位置に入ったことを確認する。
この時にコネクターが曲がったりケーブルが膨れたりしない事。



外部導体を均等に折り返して、アルミ箔が見える状態にする。



中心コンタクトを内部導体に装着し、ハンダ付けする。
半田が盛り上がらないよう、絶縁体と中心コンタクトの間に隙間が無い様に注意しながらハンダ付けを行う。
ハンダ付け後、中心コンタクトを手で軽く引張り、抜けない事を確認する。



スリーブ部を圧着工具のAの部分で圧着させ作業を完了する。
この時、圧着工具でシェルを傷つけないように注意すること。
図中の位置でクリンプハイト寸法を測定し、以下の寸法内に納まるようにする。
測定位置でのクリンプハイトは11.47mm以下

NP-5FSW 取付仕様書 (TA-24S 圧着工具)

適合ケーブル 5D-SFA、5D-SFA-LITE

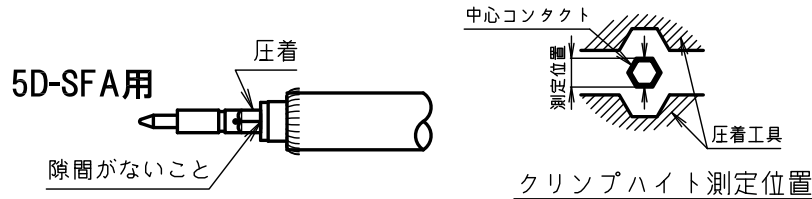
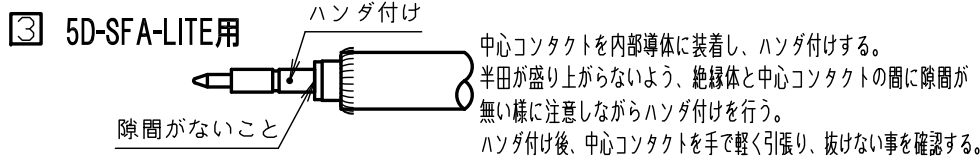
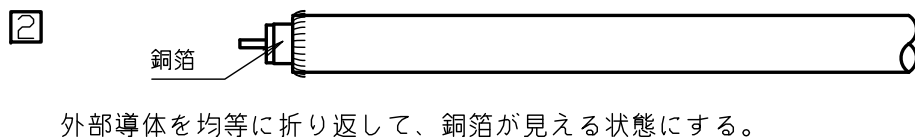
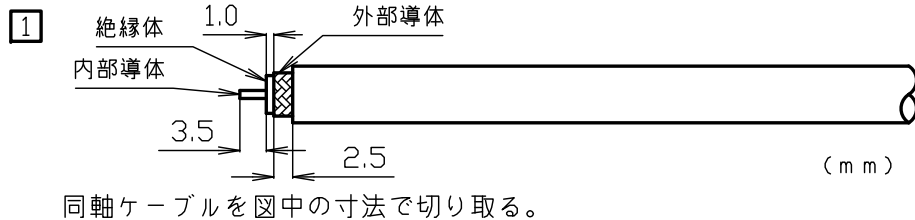
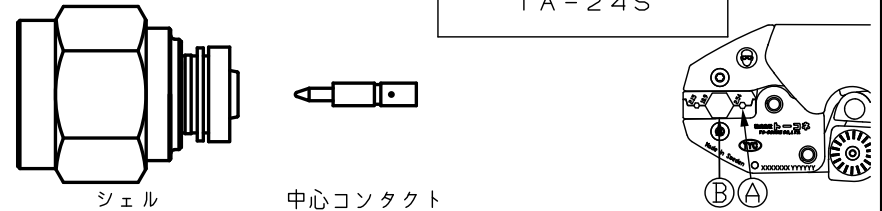
専用圧着工具
TA-24S

図番 S-0511765

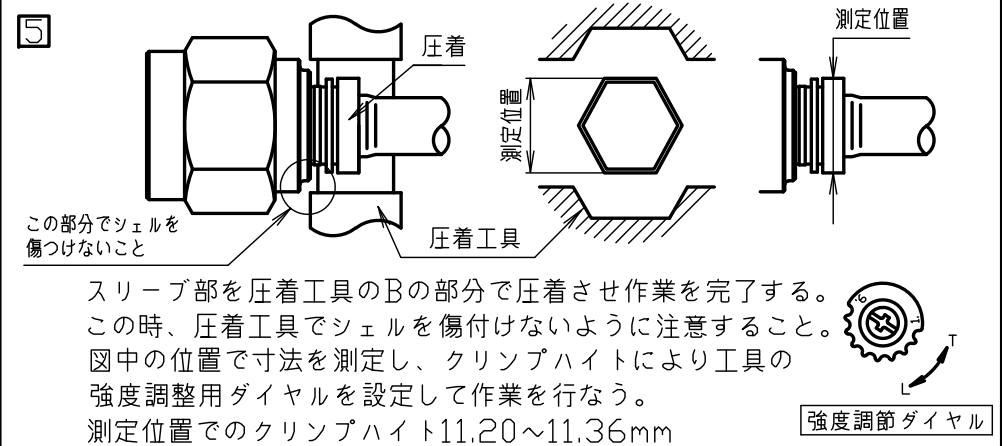
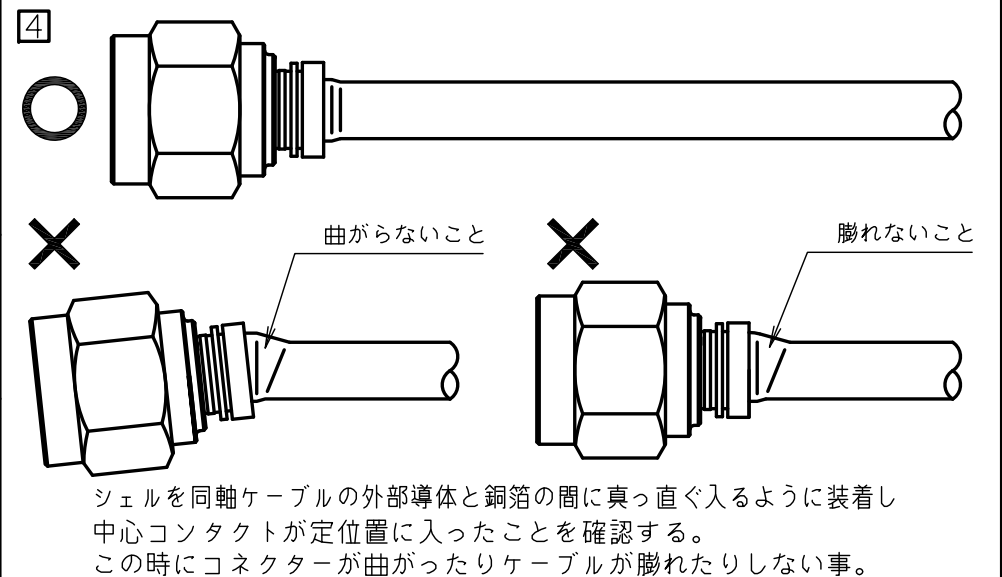
製図	検図	承認	確認
栗原	檜澤	山本	三村
'20,12,04	'20,12,04	'20,12,04	'20,12,04



部品構成



- 1 中心コンタクトと絶縁体の間に隙間がないこと
 - 2 銅箔が中心コンタクトと接触していないか確認すること
- 強度調整ダイヤル



◆TA-24Sをご使用の場合は、別紙「TA-12S/24S圧着工具 ご使用上の注意」を必ずお読みください。

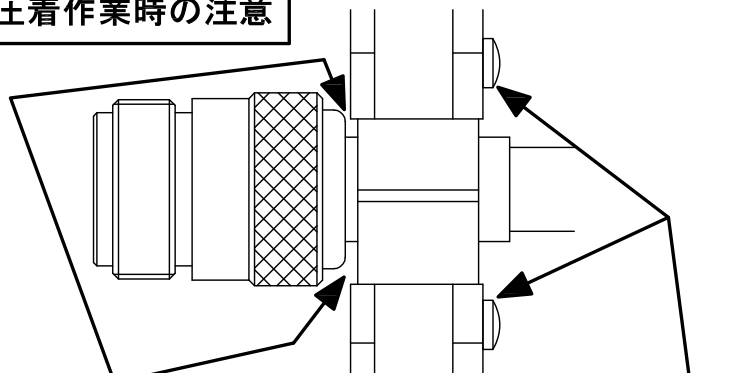
TA-12S/24S圧着工具 ご使用上の注意



作成	確認
栗原	山本
'21,02,09	'21,02,09

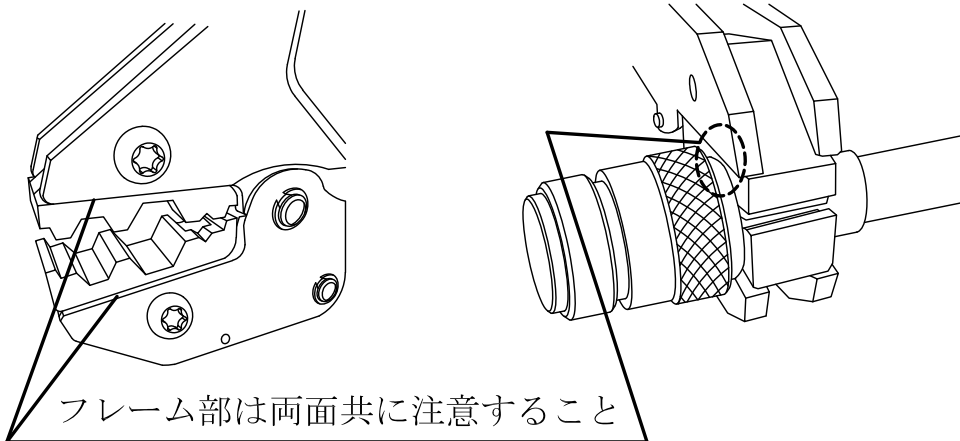
◆該当圧着工具をご使用の際は、下記に注意してご使用ください。
コネクタの形状により、圧着工具の部位が接触しコネクタにキズがつく場合があります。

圧着作業時の注意



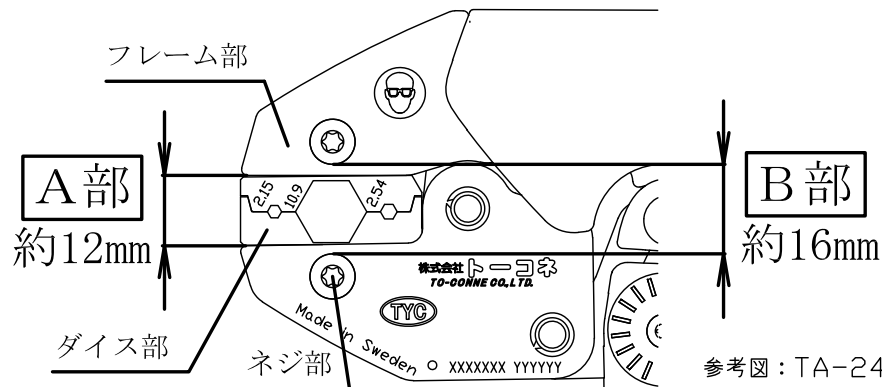
① フレーム部に当たらないように
ダイスとの隙間に注意 **※注1**

② ネジ部に当たらないように注意



フレーム部は両面共に注意すること

A部 ダイス幅よりもフレーム部の幅が大きく、コネクタの圧着部付近が下記寸法よりも大きいコネクタは接触しないよう注意が必要です。



参考図：TA-24S

B部 圧着部付近が16mmを超えるコネクタは圧着工具のネジ部が当たらないように、向きを変えて作業してください。

※注1

仕上がり状態で、下記範囲が1.5mm以下になるように作業をおこなってください。

